

東照宮 :



江戸幕府初代将軍・徳川家康(東照大権現)を主祭神として祀る。東照宮の総本社の存在である。また久能山東照宮・上野東照宮と共に三大東照宮の一つに数えられることが多い。

元和3年(1617年)に久能山東照宮より下野国日光に完成した(作事奉行は藤堂高虎)社殿に改葬されることとなった。朝廷から東照大権現の神号と正一位の位階の追贈を受け、4月8日(5月12日)に奥院廟塔に改葬され、家康死去の一周忌にあたる4月17日(5月21日)に遷座祭が行われた。天海が主張した山王一実神道(薬師如来を本地仏とする神仏習合)によって祀られている。

(写真は五重塔)

陽明門(ようめいもん)【国宝】



日本を代表する最も美しい門で、いつまで見ても見飽きないところから「日暮の門」ともよばれ、故事逸話や子供の遊び、聖人賢人など 500 以上の彫刻がほどこされています。

唐門(からもん)【国宝】(写真)

全体が胡粉で白く塗られ、「許由と巢父(きょゆうとそうほ)」や「舜帝朝見の儀(しゅんていちょうけんのぎ)」など細かい彫刻がほどこされています。

日光山輪王寺



明治の頃から日光は輪王寺・東照宮・二荒山神社の三カ所が参詣所とされ、それぞれの境内は、いつも賑わっています。しかし、それ以前は「日光山」としてひとつに包括された関東の一大霊場だったのです。

奈良時代の末、勝道上人によって日光山は開かれました。四本龍寺が建てられ、日光(二荒)権現もまつられます。鎌倉時代には将軍家の帰依著しく、鎌倉将軍の護持僧として仕える僧侶が輩出します。この頃には神仏習合が進展し、三山(男体山・女峰山・太郎山)三仏(千手観音・阿弥陀如来・馬頭観音)三社(新宮・滝尾・本宮)を同一視する考えが整い、山岳修行修験道(山伏/やまぶし)が盛んになります。室町時代には、所領十八万石、500におよぶ僧坊が建ちならび、その隆盛を極めます。

江戸時代、天海大僧正(慈眼大師/じげんだいし)が住職となり、山王一実神道(天台宗)の教えで「家康公」を東照大権現として日光山に迎えまつります。

「輪王寺(りんのうじ)」の称号が天皇家から勅許され、さらに慈眼大師(天海大僧正)・三代将軍「家光」公が新たにまつられ、「日光門主」と呼ばれる輪王寺宮法親王(皇族出身の僧侶)が住し、宗門を管領することになりました。法親王は14代を数え、幕末に及びました。(出典 [輪王寺ホームページ](#))

(写真は天海大僧正)